

THE
WOOLMARK
COMPANY



カットソー・ クッション

BY TEATUM JONES

古くなったニットウェアや布地を、ホームメイドのクッションカバーに蘇らせましょう。





材料

- 古いセーター(またはその他の衣類) x 1
- クッション用ジッパー x 1
- はさみ
- ミシン
- ミシン糸
- チョーク/ペン/鉛筆

- 紙かボール紙(どんなものでも)
- ピン(待ち針)
- 定規
- 巻き尺
- オプション: スカーフ地、刺繍枠、手縫い針、毛糸/糸

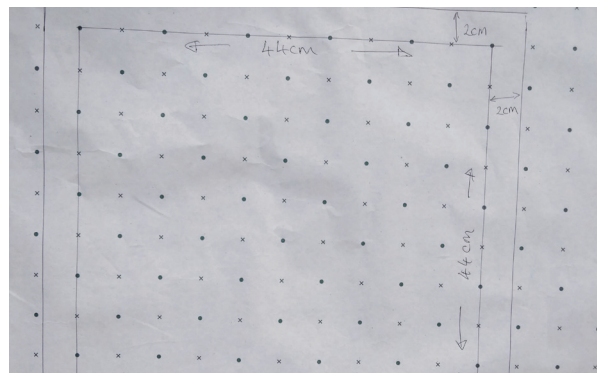
LET'S GET STARTED!

ステップ 1



クッションのサイズを測ります。
(ここでの作り方では44cm x 44cmサイズ)

ステップ 2



型紙を作ります

私たちのブランドのクッションサイズに合わせて、ここでは44x44cmサイズをもとに説明します。4辺すべてに2cmの縫い代をとります。

従って型紙は48cm x 48cmの正方形になります。

ステップ 3



セーターやウールのニット生地の上に型紙を置きます。

型紙にピンを打ち、布地をカットします。

このサイズの正方形の布地を2枚カットします。ここではクッションの両面に同じ布地を使用しましたが、前面と後面で異なる布地を使用することもできます。

ステップ 4



布地の4辺すべてにジグザグ縫いをかけます。

編み地がほどけないように十分注意してください。ほどけると、完成後にクッションに穴が開いてしまいます。このジグザグ縫いでニットを補強します。

刺繍—オプション

チョーク／薄いペン／鉛筆を使ってクッションに好みのデザインを描きます。刺繍から鉛筆跡がはみ出して残ってしまうので、消せない鉛筆を使う場合にはあまり間違えないように注意してください。刺繍を入れる際は、必ず最初に型紙をとります。そして刺繍のアートワークを移動させて、しっかりくる位置を見つけます。

布地を刺繍枠にはめます。刺繍枠はなくても大丈夫ですが、糸を引く時に強く引きすぎないように注意してください。そうしないと、布地が引きつってシワになります。

希望の仕上がりにより、手刺繍またはミシン刺繍します。手刺繍の場合、織り糸の毛糸を使って0.5cmのステッチで刺繍することが多いかもしれません。セーターの残りをほどこいた糸を使って同じように仕上げられます。

別布に刺繍して、クッションにアップリケのように付けてもよいでしょう。



ミシンで布地の前面と後面にジッパーを縫いつけます。

私たちのブランドでは通常、クッションの底部分にジッパーを配しています。

2cmの縫い代があることに注意して、正しい位置にジッパーをピンで留めます。

注：布地の幅より少しだけ短いジッパーを使うと、クッションを仕上げやすくなります。



ジッパーを縫ったら、両方の布を、裏面を外側にして重ねます。

残りの3辺をジグザグ縫いします。ジッパーの周囲もジグザグ縫いして穴をふさぎます。ジッパーは開けた状態で縫ってください。

繰り返しになりますが、縫い代が2cmあることを忘れないでください。縫い合わせる時には布地が厚くなり、伸び縮みするため、特に注意してください。

仕上げ

ステップ 8



クッションカバーを裏返して、角部分を引き出して整えます。

指またはハサミを使っても良いですが、ニットを傷めないよう注意してください。

ステップ 9



クッションをカバーの中に入れてジッパーを閉じます。
完成です！

内部のシームをオーバーロック(かがり縫い)するか、バイアステープで閉じると強度が高まりますが、これはオプションです。

<https://www.woolmark.jp/aboutwool/wool-care/>にて、ウールの洗濯と乾燥について簡単なヒントをさらにご覧になれます